

ある木質チップ生産業界では、「3月は2月と比較して盛り返してくるのが通例だが、今年はその兆候が感じられない（木質チップ生産業者）」の声が聞かれる。このような状況が各地で続いており、原料確保の面で厳しい現状が続いている。その余波として、仕事量の減少に伴い資金繰りが悪化。解体業者の倒産危機が現実味を増してきた。これを受け、近畿や東海の木材資源リサイクル協会では、チップ処理料金の未収金の発生防止に神経を尖らせている。

最近では一部の大手製紙工場で破砕施設を導入、自社で木質系廃棄物を集めよ

チップ買い取り制限も 製紙などの生産調整で

手段を取りはじめたことから、市場の混乱を招いている。同製紙工場に木質チップを納入する生産業者の中には、この動きに対し「我々処理業界の領域に土足で入り、仕事を奪い取るようなら、こちらにも考えがある」とし、木質チップの納入を全面的に止めたとする事例も出てきた。

昨年4月頃以降から上昇傾向にあった木質チップのユーザ―買い取り値だが、経済環境の急変により、製紙が生産調整に入るなどし1キログラムあたり3円以下の水準に戻るといった見方が出ている。前回でも紹介したが、今後は中間処理事業の原点に帰り、処理料金の確保の見直しを改めてする必要が出てきそうだ。

うとする動きも出てきた。しかも、同社は木質系廃棄物を有価で買い取るという

(この項おわり)